

様式第25号

年 度 評 価 シ ー ト

課名 男女共同参画・人権政策課

施設の名称 静岡市女性会館	指定管理者名 特定非営利活動法人 男女共同参画フォーラムしずおか
<p>1 履行状況</p> <p>業務仕様書及び業務計画書に従って適切に履行されている。</p> <p>(1) 事業実施状況</p> <p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響として、参加者の見込みが大きい6月に予定していた開館30周年記念の実施を延期することがあった。他に職員や職員の家族にも感染者がでたが、対市民への影響はなかった。</p> <p>9月には台風15号による大規模な豪雨災害が発生し、館が停電となったため、9:00～17:00まで休館とした。清水区では6万戸以上が断水したため、女性会館は男女共同参画団体である静岡市助産師会の沐浴等の支援情報をいち早くHPやSNSに掲載するとともに、女性支援について検討した。</p> <p>利用団体に感染防止対策を前提とした活動が根付いたため、貸室の稼働率や利用者数は前年度に比べて増加した。</p> <p>学習指導要領の改定により、令和4年度から高校では「総合的な探求の時間」が必修科目となり、ジェンダーに関する探究学習への問合せや相談が増えた。職場体験・インターンシップを希望する中・高校生も増え、課題である若い世代への周知度を高める良い機会となっている。</p> <p>主な事業の詳細は以下のとおりである。</p> <p>① 講座企画運営事業</p> <p>事業計画書に加えて「探求学習のサポート講座」を行い、全21講座を実施し、延べ1,272人（デートDV防止出前講座1,203人をのぞく）の参加があった。</p> <p>主要講座である第19期アイセル女性カレッジは、45歳以上の女性を対象とし、「セカンドキャリア」をテーマにし。座学だけではなく、フィールドワークを組み入れ実施し、99.1%という高い満足度を得る結果となった。</p> <p>新規利用者は575人、講座受講者の満足度は全体平均で98.9%、理解度も全体平均で97.3%と非常に高かった。</p> <p>防災分野における女性の人材育成講座は修了生対象に2回実施し、1回目は子どもを守る視点で地域防災に必要な知識や発災時の備えなどを学び、2回目は9月の台風15号の被災状況や支援の様子、地域で活動を始めた受講生の活動報告などをオンラインと対面のハイブリッドで行い、地域活動を促進する機会を提供した。</p> <p>若い世代に向けた取り組みについて、「高校生のライフデザイン講座」、「デートDV防止出前講座」、「Z世代のための生理フェス」、「大学生向けキャリアデザイン講座」などの講座の実施のほか、「総合的な探求の時間」への協力依頼を受けたことに応じて、高校生向けの「探求学習サポート講座」を追加で実施し、5つの高校153人に対してジェンダー平</p>	

等に関する探究学習のサポートを行い、積極的に若い世代への啓発に努めた。

② 相談事業

「女性のための総合相談」は、電話・面接相談を244日、法律相談を24日開設し、年間で1,889件の相談があり、昨年度の1,922件を若干下回ったが、電話相談に限っては前年より74件増加した。電話の件数が増えた要因としては、相談の時間帯の変更（火、水、金 10:00～13:00、14:00～18:00⇒9:00～13:00、14:00～17:00）や待機職員を2名から3名に増員したことが挙げられる。相談の中心は40代・50代で昨年度と比較して30代からの相談が減少した。

相談内容を見ると「家族・親族関係」「DV」「仕事・暮らし」という順で上位3位を占めている。面接相談は約7割が「DV」に関するもので、「離婚・暴力」を加えると9割を占める。電話相談についても、「DV・暴力」の占める割合が昨年度16.1%から、21.1%に増えている。

令和4年度から指定管理に加えた同行支援は9件あった。

就職・転職・キャリア相談は、年間43件実施。にじいろ電話相談は年間で29件

③ 情報収集・発信事業

図書コーナーでは、新規登録者数が226人（昨年度228人）貸出冊数は17,384冊で昨年度の16,396冊を上回った。貸出者数は5,109人（昨年度4,700人）閲覧のみの来室を含む利用者数は10,756人（昨年度7,080人）となっており、昨年度を大幅に増加した。資料の予約が貸出増につながっている。

9月の防災の日には「防災×男女共同参画」として、葵区地域総務課と共催で、避難所の間仕切りテントや段ボールベット、簡易トイレ等の展示を行ったところ、普段サークル活動で利用している来館者からも関心が寄せられた。

④ Jo-Shizu人材バンク活用事業

コロナ禍においてメンターの公募を休止し、メンター同士の交流会である「メンターフェスタ」も小規模で実施した。個人面談の希望は、2件だった。審議会の委員や講座への登壇者紹介など、メンターやカレッジ修了生を中心とした人材紹介を行った。

⑤ 団体活動支援事業

開館30周年の記念企画として、6月の男女共同参画週間に「男女共同参画団体活動紹介展示」を実施し、17団体の参加があった。また、葵生涯学習センターと共催で行う団体活動発表会「アイセルわいわい祭り」は、感染防止のために参加方法に制限を加えたが21団体の参加があった。来場者は583人であった。

（2）施設管理・運営

各部屋の稼働率は平均で47.2%（前年度41.0%）であり、利用者数は61,506人（前年度50,182人）と、前年比で若干回復したが、平常時と比べると低かった。

個別の修繕については、外回りの鍵の交換、図書コーナーの照明器具の残りのLED化を整備した。修繕2件、小破修繕18件、保守・点検・改善23件、衛生管理・掃除14件対応した。

(3) 組織運営

年度途中で常勤職員の退職があったため、6月と10月に常勤職員を2人採用した。

相談室には令和4年度から相談室専任職員を配置することができたが、4月と8月に相談員が退職、また体調不良により休職者も1人出たことから、相談員確保に苦労した。4月と2月に新規の職員や、6月から臨時の職員を採用した。新規に採用した相談員は経験が浅かったため、相談員育成のためのプログラムづくりや研修の機会を確保した。

今後も女性支援の志のある人材の発掘・育成を行っていく。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

女性会館では、利用者からの意見・要望を吸い上げるため、定期的に利用者トークサロンを実施しており、複合施設である葵生涯学習センターと情報共有しながら、意見・要望を反映した施設管理を行っている。令和4年度はアイセル女性カレッジ（17期、18期）と手編みでつながるニットカフェの参加者に焦点を当て、利用者トークサロンを通じて意見・要望を聴取し、適切に対応した。

<具体的な意見・要望とその対応状況>

（女性カレッジ）

意見等：キャッチフレーズがあると名前を憶えやすい。

意見等：ふりかえりをみんなで共有したい。

意見等：休憩時間を設け茶菓子などあれば交流がしやすかった。

（ニットカフェ）

意見等：居場所事業を行う際のポイント等。

- ・おしゃべりをしつつ簡単な手作業を行う。
- ・回数は3回以上。人数は8～10人の少人数が話しやすい
- ・毎回最初にアイスブレイクを入れる。
- ・休憩時間を設け、お茶とお菓子など気分転換できるようにする。
- ・講座終了後に参加者同士が集まる機会を別途設けるとよい。

対 応：頂いた意見を次年度の講座企画・運営の参考とする。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者理解度調査

講座受講者に対して実施した講座満足度アンケートでは、理解度が97.3%と回答しており、協定書で定めた目標値（80%以上）を大きく上回る結果となった。

(2) 相談事業、図書コーナーの認知度

目 的：女性会館の講座参加者の属性、地域及び図書コーナーや相談事業の認知度を把握する。

対象者：講座やキャリア相談への参加者 延べ908人

講座参加者の年代は10代が最も多く、次いで40代、50代の順に多い。

女性会館が実施している相談事業の中で知っているものを尋ねたところ、いずれも知らないが40.4%、女性のための相談事業が38.5%、次いで女性のための法律相談26.7%、女性のための就職・転職・キャリア相談26.4%

図書コーナーを知っているのは、10代の33.3%を除き、半数を超えた。60代以降の認知

度が高くほぼ9割を超えた。図書コーナーを知っている人のうち本・雑誌を借りたことがあるのは35.1%であった。

4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務についての収支状況については、概ね予算のとおりにより執行されており良好である。電気代、ガス代の高騰に伴い、予算から超過した分については、指定管理料を追加して支払った。なお、支出科目ごとに見ると施設費（光熱水費）を除くと、一般管理費において支出超過が見られたが、研修にかかる費用が抑えられたため、業務管理費が減少するなどにより、全体としては予算の範囲内に収まっている。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

協定書中の数値目標については、（１）新規利用者数（講座、図書、相談※デートDV出前講座を除く）年間1,284人（目標：1,100人以上）、（２）講座等受講者の理解度97.3%（目標：80%以上）、という結果になっている。

いずれも、目標値を上回った。（１）3市民アンケートの結果に基づき、昨年度の課題であった、10・20代の若い世代の取り込みや清水区民の利用率の向上が目標値の達成に結びついたと考えられる。（２）については目標を達成、高い理解度となった。

施設の管理運営全般に関しては、事業計画に従い良好に実施されている。特に、新型コロナウイルスに対して、市の方針に従い感染症対策を徹底し、利用団体への周知等について臨機応変に対応できている。

また、利用者トークサロン等により、随時利用者からの声を反映させる等、指定管理者制度のメリットを十分に活かし、満足度の高い事業展開及び施設管理を行っている。